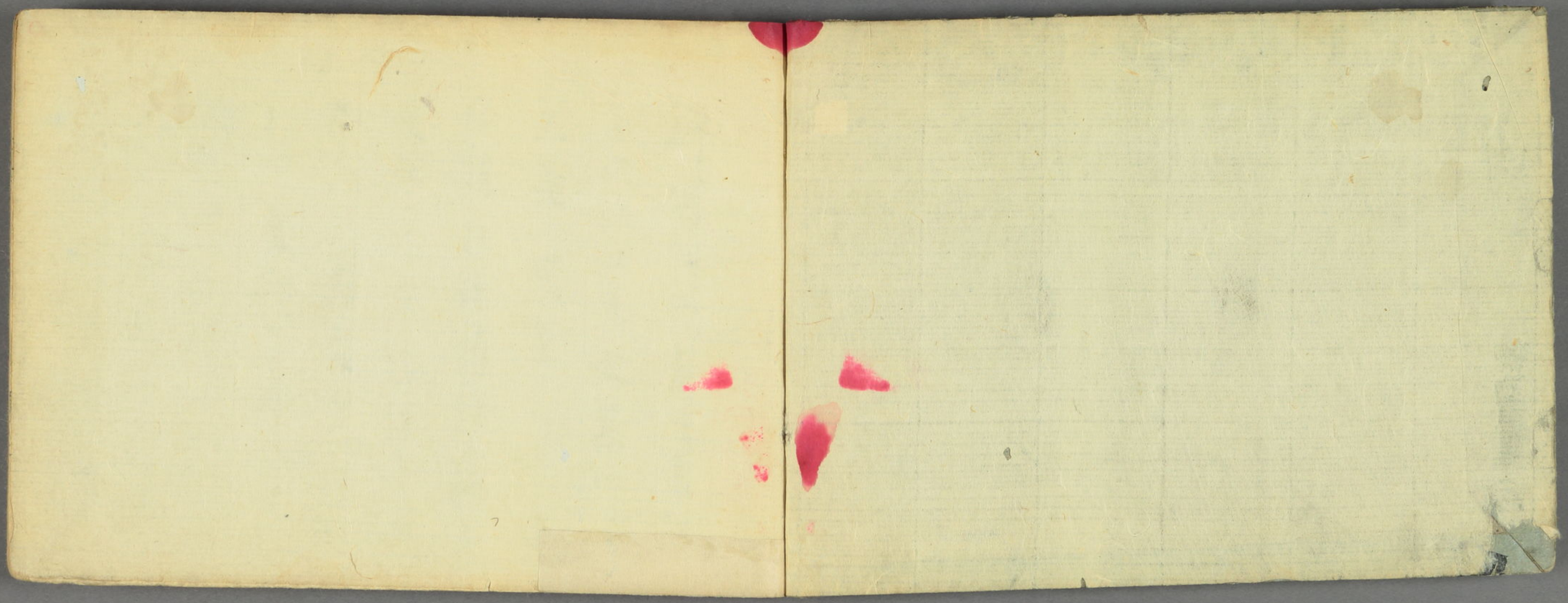
俳諧
手鑑

物見高集



松宇文庫

天理圖書館

彈冠社天素陸東松
氏社四季文集行る
文章雙集なんを皆
風月社條情行る徒尔
書をして風社子弦
九意に去古を社
形や書殿をして
漢学乃加堂に汚み
藝を弟に学ばまの加るを
なを而を風雅年擬

良勇之術に貫通し
御堂の手練家に
義に 梅村老人 諸方
加賀藩の剣 法華陵
きらい 赤松 梅尔
出羽 [illegible] 信平 [illegible]
敬 [illegible] 久井
無双 流 [illegible]
機 [illegible] 初心 [illegible]
乃 [illegible] 手 [illegible] 傳 [illegible]

許子 [illegible] の [illegible] に賸か
[illegible] 移 [illegible] [illegible]
[illegible] 年 [illegible] 世に [illegible] 章
[illegible] 筆
の [illegible] 貫 [illegible] 園
八 [illegible] [illegible] 文
[illegible] [illegible]
驛 [illegible] [illegible]
[illegible]

廣子 [illegible]

丈園 山蔭

目録

一俳諧年頭状　眞　梅室
一同　行　淡叟
一同　草　昂龍
一同　返事　岳鳳
一年玉禮状　道彦
一上京誘引之状　鶯宿
一二の替評判申巻之状　百堂
一句集披露之状　氷机
一嵐山満花問合之状　少山
一笠着俳諧誘引之状　其竜
一鳴戸之汐干誘引状　素屋
一住吉之汐干誘引状　吐屑
一忠度之古梅誘引之事　九齋

湖之長歌披露状　蕙逸
一れゝ俗名の方へ書すし状　呂國
一旅中同伴之礼状　いさゝ
一端午乃節句状　梅價
一同　井竹女
一逆櫓之松の隣へ行状　西月
一時鳥之玉章請引之状　山舊
一修学院御幸申書すし状　太尤
一翁塚農句聞之書ける状　井資
一万句集申書ける状　奇潤
一漢和附句返事　超然
一中元之雅状　萬籟
一伊勢ゟ音信状　五株
一筑紫ゟ音信状　桃五

一尾陽之調物到来礼状　杜春
一月見誘引之状　祇杖
一新米一袋到来礼状　米友
一旅中義仲寺訪状　鶯居
一旅宿、茶を書ける状　杜鶯
一京都ゟ音信状　月士
一句評申書ける状　虚白
一素堂へ礼状　可都里
一東武ゟの返事状　遅流
一梅室甎之文章申書すし状　乙鶯
一口切誘引之状　井左
一自画賛別帋へ書ける事　紫人
一時雨會之状　坂山
一歌仙之脱申書ける状　蕉雨

一今是、摺物綴る事　休叟
一伊豫小松、返事　有節
一短冊認めて返事　雄潤
一浪花より音信状　枫良
一高槻より音信状　平山
一四國集礼状　吳月
一野山之方言問合状　春兮
一石印出来礼状　太華
一柴居十三回忌集冊綴る状　菖三
一尾陽より之文通　鶴叟
一鮎到来礼状　かふら
一天満宮地築祝ひ申遣ひ状　天来
一翁之文章

已上

俳諧年頭状之眞

謹賀

[illegible]

回除[illegible]

先以

[illegible]

[illegible]

恐賀[illegible]

[illegible]

自[illegible]

[illegible]

同上　行之文

新禧之御慶[illegible]賀
申納候先以清雅之御
皆々様益御機嫌能[illegible]二
[illegible]被遊御迎春奉
存候随而私共無事ニ加年仕候
乍憚[illegible]中[illegible]
猶[illegible]永日[illegible]

永日[illegible]

福[illegible]　八[illegible]

七兵衛様

尚々[illegible]入[illegible]
[illegible]

同上　草之文

梅柳之佳節喜存候
弥御無異御揃被成奉賀
然者二之午祭禮ニ付
就夫御社頭へ御奉納之
幟之儀旗幟刀

御手透之節御認
遊し可被下候ハヽ忝
可存候先者右之段
御頼申上度如斯
御座候以上

同上　返事

年玉之礼

世の中に居山なる
ちとせの春の
雪見
そなへ
月ちる
雲生心
金谷

松生幼年之時八宗武に在て
金谷舎門人等中比今法印
住歴こそ能懸梅左とふ

上京誘引之状

二ツ替評判申上候状

[illegible]

つる此ら人桃る子深く
言をも託られる千歳
飢敷れ鯤く生命
り只味こそ狸とし
鱗綱好て務布
ほ遙帯 携ちこひの
芦原の良今又或も
美玉々お深の借寶坊
花代末寶文大行く会

指すおゝ磨寺仏上旨
待つ大一種一飄し
携ある遠き奇花
人そゝの語風留対て
中和七日 る堂
参推出之 並
身攘え駱引
那しさろ 蛙 いくん

句集披露之状

[illegible]

氷弧

[illegible]

嵐山之満花間合之状

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

併夜々莫随に取寄
置とて御為ゟ被下候
御座候様子致度候 不乙
如月朔 外山
暗啄
丈翠様
田の氷乃二葉哉
巾が窓ノ扉
御返事

笠着俳諧誘引之状

明日ハ当月秋季之
無之清福の節ニ御座
候ニ付今ニ[illegible]
桃青翁ニ倣ひ今般
笠着俳諧興行
その[illegible]あり舞人
見物ハやとかの卿ニ
御[illegible] 雅柳
志ある御方ハ何卒
なれハ御まこれの因縁をしのひて風月ニ狂仁

二月十六日　[illegible]

古鏡社見

[illegible]

鳴戸之潮干誘引之時

住吉之潮干詩引之歌

篠山操

九翁

[illegible]

湖水長唄披露之状

[illegible]

此ほと給 さて〳〵根つよく〳〵
有之いや見事の花を
餘多帰り屋らしく候
めでたく此園は九十九浦の
眺望よ志用ゐすゝむる韻
於蔵らしく候

まや〳〵の花 花のかをりの
雅ぬ手を付け出しく
それしく情趣の
やとる家に

喜多ある人

蕙兎

同名之方へ遣状

未得貴意候得共以書状致啓
呈上候然者杜若小西之氣作之
押板ニ被相定由風承申候ニ付
嘸々雅趣目出度同意之事ニ候 偏
御聞可被成候先ハ右之段得貴意
度如此御座候 恐惶謹言

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

初夏八日　　呂園

イヨ西条

呂園様

[illegible]

[illegible]

[illegible]

旅中同伴礼状

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四月七

卓池橘　いさみ

竹植て桃ふ

あしの郭

たうなつ

端午節句之状

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同上

逆櫓之松之傍へ行牧

いまた きかて候
へしも 一声をも きかす
さらに 貴公にも 御聞被成候
由承り 扨も 羨しく 存候 一声
みよと 行て 山中
しけき 木の間も 訪
ほととき すの さそひ なき
しけき やまの 声を 聞
はや 夜も 明 候へ
さりとて 心
もれ 候 由承 候 以上

修学院御幸之事

此度八月 目出度 御幸之
由 朱雀院 御経 供養
不斜 其日の ありさま 中々 目を
おどろかし 修学院
なる
御山荘 御幸にて
ことに めでたし 御車を並べて
万里 見物の 群集
山城 方の 物見の もの

御状致拝見候然者
いよいよとさる中への八手
芝愛宕山峯より見渡し
さらに品川のかとゆき千銭
もしめハ為善橋ゝ
料理なとりいろいろ
申のしとりつりハと
好みにて遊足ゆきの処
身分ニ者甚是悦以身

折ゝ見物と存候
御入櫂之御出なと
まつはあらかしく御待
当余寒なかなかつよく候
めでたく申のまいらせ候

五月廿一日　吉光

山村雅仙

漢和附句之事

思依を驚かし候ゆゑの由なり
或ハ詩を作り和歌を詠
拝眉のうちにて詠重ね
御座候ゆゑ頓首
六月三日　趙然
普存雅兄
蛙なく里眼に見えぬものゝ清きかし　翁
纖月穿新樹

中元之雅状

せい踊乃輪のさかり
しりやくてころ
きゝてとも　一方
ことにむつやもしく　亦
ごつゝとおろかり　中元の後を
ありまく候つゝ　御清福
なりいかゝてのこと　まゐ
らくのあゝともかうて
あとくもして　ものゝの
このしまて程いと

初秋の　芳風

[illegible]

[illegible]

[illegible]

伊勢[illegible]との交通

[illegible]

関にて上候のはい
葉月朔日　五様
武田吉兵衛入
石清水やおきてのいかに来本
　人々我ら何のこと
御殿をとゝもの波め申伝
　しつかに庭前の風
　出そ山ゆゑ関へ
　作法にての事
　こんにまへのいて
露おくや涼しき花
　露もみれ出見事

築紫よりの文通

無に清安に相成候剣
年始の祝ひ悦び申候 恙無
御消息有候様々御座候
承り相整候紀行
其後文の蒲萄年之
御かしおや御一文之事
見物あるまじく難儀
人目見其時之家内候
加賀出杖作り書か
相談候之村
殿

八月二日　雨　晴

廣瀬玄晩孫
梅　田芳翠孫

清てふおとこ
くるあらくなれ
人形てをはの
形をもて船あるを
をゆかしく

新米一袋到来礼状

それ〳〵ゆうよひより
寺宮丹石山にて
ものもうて
ものもうて祥雲のの月
清光空谷良夜を供
清豊り来待上ぶ徳遥月ハ
早稲の白米を袋志恵
授夜下米ふる〳〵交ぜて
よりの月のふる愚名なも
相可ひ片ふそく粥炊煮
扶込の一法杉僧直味

仕郡有事御吉何レ
初月下ル時ヶ刻上
八月十日　よね友
世波様
物句の
奉公のめんくるる
お尻きぬ
吉今入てし

尾州調物申ぞ礼状
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

八月十五夜

面影

八方の所の
夜の月の
[illegible]

月見誘引之状

[illegible]

重陽菊花を挿枝

風訓 抄

いとの通歌

寄あるを

ふるまに

あるのるを

山の雲

京都ちまの文通

時昔をこの方のみるは

異とる者にみるみ

物りをる風の事

詠し一書を写し

給へ杉ぬ事

無尾の祥也拝

者へ宣るを其へ

其へ清るの実源

[illegible]

月士

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

句評申出状

[illegible]

素聖之礼牧

東部与三の返事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

物商之枝下　深草

口切誘引之枝

自句別帋申寄事

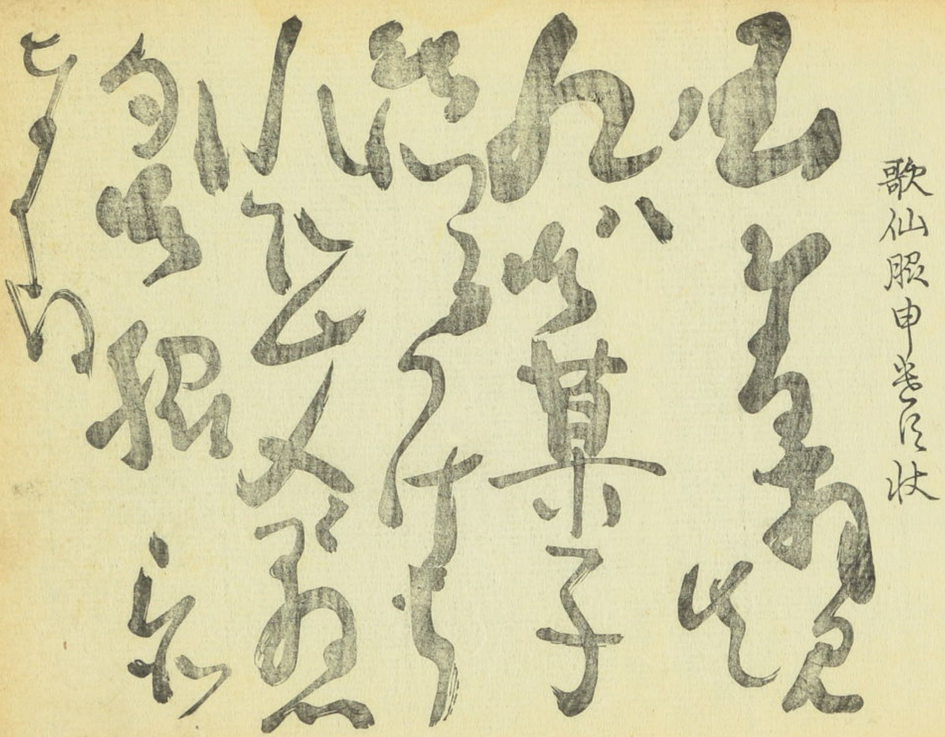
時雨會之事

十月十一日　祐山

里芋上人

を似て栄て
市乃大根の
屋かしらの沼沼
のゝゝて淋来る
いを　ゝ

歌仙服申巻状



今是へ摺物種々收

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十月廿日

浪花ちゑの文音

[illegible]

[illegible]

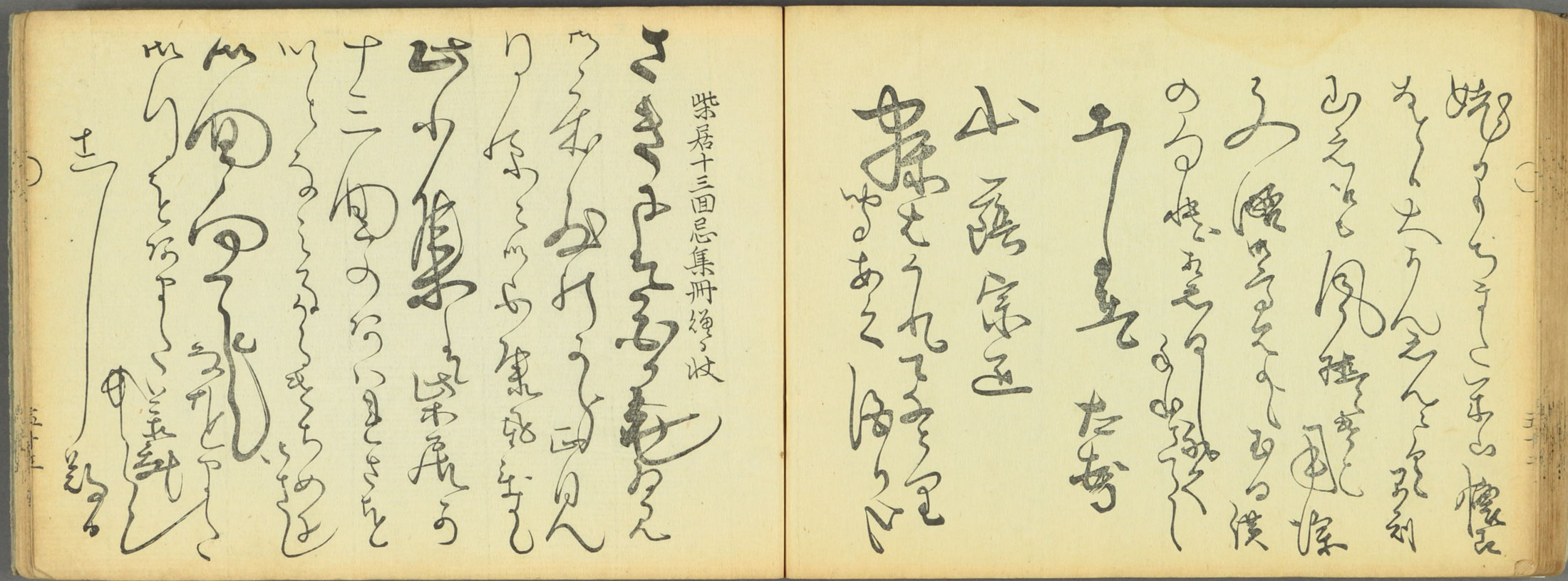
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

石印出来礼状



尾張ゟ之の文通

杜鵑

河豚到来礼状

[illegible]月八

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

天満宮地築張ひ申合す牧

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十二月

二十五

情状様

翁之文通

谷 桔梗堂取蔵

谷 桔梗堂取蔵

を不こゝろさし合はゝく樹も寒き　夢
蛭乃土をゝ乃田鼓かゝひゝふ　尤
山伏乃著者もゝゝゝと鳴よ夫を　尤
樹をしゝ孫なゝ樹乃結梅　尤
ゝゝしまゝ侍よあゝの次をゝる　尤
ゝゝゝ者も乃ゝ面紙作乃休ゝ　尤
和泉退の女房乃仕ゝゝあゝ紙し　尤
ゝゝゝゝゝゝふ仏乃ゝをゝ　尤
ゝ一殺に主ゝゝゝ後ふゝを樹　尤
特祝の事ふ称二番をひゝふ　尤
いつゝゝをいふゝゝい月ゝ向ゝを　尤
ゝしゝかゝゝゝゝゝをゝふ笛　尤
除ゝゝゝ水ゝゝを黒ゝ花のゝ　尤
ゝゝゝゝゝふ仏御ゝゝゝゝ　尤
自ゝゝゝ深ゝゝ面ゝゝ鐘ゝゝ　尤
年ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　尤
兄彼ゝゝゝゝある樹ゝゝゝゝ　尤
ゝゝゝ後ゝゝ人樹ゝゝゝゝ　尤

情ゝゝゝゝ書ふゝ高楽ゝ　林夢
ゝ侍ふゝゝゝゝゝゝゝ三日丹　梅尤
遊ゝゝ侍ゝふ桜の移のゝゝ　夢
かゝ栗遊ゝ特ゝのひゝは九　尤
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　夢
ゝかゝゝ乃ゝ新ゝゝゝ暗ゝゝゝふ　尤
殺乃ふゝ紫乃乃煙ゝ雲柄　夢
特ゝゝゝ特ゝゝゝゝゝゝ　尤
暗乃ゝゝゝ童ゝゝ惜あいゝ　夢
遠簇現ゝゝゝはゝたゝゝふ　尤
訳ゝゝ桜乃根ゝゝ遠ゝゝゝ　夢
ゝゝの船ゝ能ゝゝゝゝゝゝ　尤
殺ゝゝ身乃かゝゝゝゝ西ゝゝ　夢
桃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　尤
ゝゝゝ御何時ゝゝゝゝ角力　夢
りゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　尤
ゝゝゝゝゝゝゝゝ卯ゝゝふる　尤
時ゝゝゝ山乃人ゝゝ　夢
時焼乃臭ゝゝ入何ゝゝ先　尤

龍　夢
龍　夢
龍　夢
龍　夢
龍　夢
龍　夢
龍　夢
龍　夢
龍　夢
龍　夢

初売自祝

山陰　野外
魯直　文江
寿九　宗仙
秀山　寿仙
雪岳　芭蕉翁九十九
梅宮　梅さ
情橋　宗鼎

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]乃梅川幡せ[illegible]
つれやしかほとり新も[illegible]
[illegible]方乃くまこ男たれ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夕月さかのせうけたる一時の間
歌多
至荒ハ絶て松葉を時雨のみ
元南
ちる中とたかるに本居氏神の祭
基恒
一陽を尋して歩るかまちの
重峰
遊ひるを除夕るしみて此月
冨久
うら梅も夕紅もさめ雪果れ
笹之
後月せて寄の鶴よ蛙よ
素牛
捨て月の初紫宮や
孤鈴
本からしを尋して
葉的
胴をほす傳もあるてちとあふ
岐鵬
出みて波れ波めく秋年那
鈴甫
角力取も寄て俳句や
夷後
寄之事や
芋之
焚火する本屋
句仙
ひと殺るおをとしつ
宣風

鶏おさやりの物をとる
三乎
日を宮よ宮て
宮翼
宮笠は風に
国鈴
一瓢
はもの八郎は
山
五拔
さて宮よ
二尺
ことをして
枕子
あ
月士
る
好
宮
上
宮
角
左
玉鋒
除月
井
梅

永[illegible]よみやを[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま

B
3
7